

審査基準

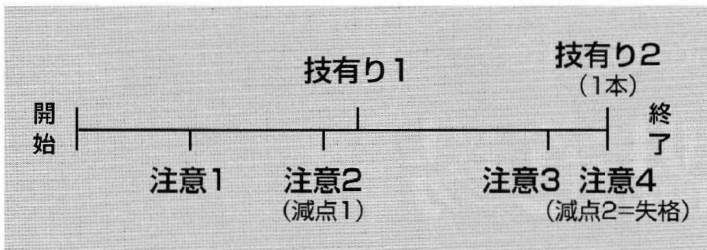
- 審査員及び審議員は同等の権限を持って審査にあたるが、最終決定は全て審判長の裁決による。

審判と勝敗

- 主審1名、副審4名(2名)の合わせて5名(3名)で行い主審同時上げとする。
- 勝敗は半数を超える判定で決定する。
- 半数未満の場合は延長戦を行い、延長戦で勝敗を決めるマストシステムとする。
- 勝敗は一本勝ち、技有り(二本取った場合は一本となる)判定勝ち、相手の失格ないし棄権により決定される。(ドクターストップの場合もあり得る)
- 試合中、主審を中心とし審判員同士で協議を行うことができる。

判定基準

- 1試合の全体を見て判定を行う。(1回の判定ごとに区切りとする)
- ① 技有りの有無、② 減点の有無、③ ダメージ、④ 技的確性、⑤ 気迫の順とする。
※必ずしも手数足数がダメージに勝るものではない。



試合時間

【初級クラスの男女】

本戦1:00 → 延長1:00 (1回戦から決勝戦まで) 延長マスト

【中・上級クラスの男女】

本戦1:30 → 延長1:00 (決勝戦のみ再延長1:00) 延長マスト

【高校生男子】

本戦2:00 → 延長1:30 (決勝戦のみ再延長1:30) 延長マスト

一本勝ち

- 反則箇所を除き相手に対して突き、蹴りなどによりダメージを与え、3秒以上相手を倒した場合。
- 戦意喪失した場合。
- 技有りを二本取った場合。

技有り

- 反則箇所を除き相手に対して突き、蹴りなどによりダメージを与え、3秒以内に立ち上がった場合。
- 反則箇所を除き相手に対して突き、蹴りなどによりダメージを与え、動きが止まった場合。
- 上段への蹴りが的確にクリーンヒットした場合。
- 前蹴りや下段蹴りなどで相手を倒し、タイミングよく下段突きで決めた場合。
- 技を仕掛けた選手が転倒した場合でも、その相手選手がタイミングよく下段突きで決めた場合。

反則

- 金的への攻撃、頭突き、掴み、抱えこみおよび掌低、または拳、肩による押し(過度の場合)は全て反則となる。
- 拳、肘など肩も含め腕部による首を含めた顔面への攻撃。
- 頭をつけての攻撃。前進ありきの体圧。(踏ん張って上体をのけぞらせる行為も体圧とする)
- 倒れた相手への攻撃。および背後からの攻撃。
- 掛け逃げ、故意による転倒と審判が見なした場合は注意を与える。
- 反則は注意2で減点1となり、注意4で減点2となり失格となる。但し、悪質と判断された場合は即失格もあり得る。

失格

- 減点が2となった場合。
- 係員や審判員の指示に従わない場合や、粗暴な言動、悪質な態度、悪質な反則と見なされた場合。
- 規格外の道衣や防具を使用した場合。
- 時間に遅れ進行の妨げになる場合、および出場しない場合。

補足

- 小学生の上段ヒザ蹴りは全て反則とする。(故意でない場合も反則となる)
- 中学生以上の上段ヒザ蹴りは全て有効とする。
- このルール案内に無い事態が発生した場合は、必要に応じ役員が協議を行い審判長が最終決定をする。
- 協議結果や試合結果に対しての意義申し立ては一切認めない。

上級クラスの決勝戦はヘッドガードを着用しません
今大会は小学生以下の上段ヒザ蹴りは禁止となります

※本体会は武道空手大会になります。子供たちが日頃の成果を試す場所です。良識ある応援マナーをお願いします。